

事業報告書

(平成27年度)

学校法人 智香寺学園

目 次

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等	1
(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(3) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 教員	
③ 職員	

2. 事業の概要

(1) 平成27年度事業の概要・実施状況	3
大学部門	
① ものづくり研究センター	
② がんばる！学生プロジェクトの推進	
③ 研究計画の進捗状況	
④ 科学研究費・その他の助成事業	
⑤ 地域交流計画の実施状況	
⑥ 主な施設設備計画の実施状況	
⑦ 就職事業状況	
高校部門	15
① 進路実績	
② 平成28年度入学者実績	
③ 耐震リニューアル工事	
④ 財政の健全化	

3. 財務の状況

(1) 概況	17
(2) 消費収支、事業活動収支の状況	17
(3) 資産負債の状況	19
(4) 連続貸借対照表の状況	19

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等

(平成27年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	平成10年4月	6		12
	電子工学専攻	平成19年4月	7		14
	応用化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	平成12年4月	2		6
	物質科学工学専攻	平成12年4月	0		0
	電子工学専攻	平成22年4月	2		6
	応用化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	115		445
	応用化学科	昭和51年4月	0		0
	電子工学科	昭和51年4月	0		0
情報工学科	平成14年4月	0		0	
生命環境化学科	平成19年4月	110		390	
情報システム学科	平成19年4月	135		515	
ヒューマン・ロボット学科	平成19年4月	0		0	
工学部小計		360		1,350	
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	90		400	
心理学科	平成14年4月	50		250	
人間社会学部小計		140		650	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	昭和32年4月	400		1,200	
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(平成27年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	6	10		19
	電子工学専攻	7	6		12
	応用化学専攻	7	7		14
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	2	1		4
	物質科学工学専攻	—	—		—
	電子工学専攻	2	5		9
	応用化学専攻	2	2		10
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	10	1		3
	心理学専攻	15	5		12
	大学院小計	51	37		83
	工学部				
	機械工学科	115	137		501
	応用化学科	—	—		—
	電子工学科	—	—		—
情報工学科	—	—		—	
生命環境化学科	110	125		515	
情報システム学科	135	182		659	
ヒューマン・ロボット学科	—	—		1	
工学部小計	360	444		1,676	
人間社会学部					
情報社会学科	90	79		356	
心理学科	50	63		221	
人間社会学部小計	140	142		577	
大学合計	551	623		2,336	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	400	326		1,041	
高校合計	400	326		1,041	
法人合計	951	949		3,377	

(3) 役員・教職員概要

① 役員

(平成27年5月1日現在)

理事・監事 の区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山 俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)	財務担当	宇都宮 孝和	平成19年4月
理事 (常勤)	理事長	松川 聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤 良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	渡辺 達治	平成23年4月
理事 (非常勤)		神居 文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪 行雄	平成19年4月
理事 (非常勤)		馬岡 清人	平成23年4月
理事 (非常勤)		緒方 延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)		宇高 良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		川田 博美	平成12年12月
監事 (非常勤)		今岡 達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷 仁海	平成19年7月

② 教員

()内は兼担を示す

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(54)		(54)
先端科学研究所	1(18)		1(18)
工学部	49	93	142
人間社会学部	22	55	77
大学計	72	148	220
正智深谷高校	58	35	93

③ 職員

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	5		5
大学部門	61		61
高校部門	9		9
合 計	75		75

2. 事業の概要

(1) 平成 27 年度事業の概要・実施状況

大学部門

- ① 新施設「ものづくり研究センター」は、平成 28 年夏の完成を目指し、平成 27 年 10 月に地鎮・起工式、平成 28 年 2 月に上棟式を挙行し、工事は順調に進行中。



地鎮・起工式（平成 27 年 10 月 15 日）



上棟式（平成 28 年 2 月 26 日）



現在（平成 28 年 5 月 2 日撮影）

- ② がんばる！学生プロジェクトの推進

目的：学生の自主性・創造性の向上と、学生相互の交流の活性化
〈平成 27 年度は次のプロジェクトが様々な活動を行いました。〉

- (1) SAIKO 学生フォーミュラプロジェクト
- (2) SAIKO Aquarium Project
- (3) 集まれ科学実験教室プロジェクト
- (4) 米と日本酒（米作り、そして日本酒へ）プロジェクト
- (5) OKABE 光の回廊プロジェクト
- (6) 自然環境保護プロジェクト
- (7) SAIKO EV Project
- (8) ロボコンチャレンジプロジェクト
- (9) SAIKO advertorial project
- (10) SAIKO ブランド農産品開発プロジェクト

【主な活動報告】

*SAIKO Aquarium Project

名古屋東山動物園にて研修実施。園内のメダカ館においてメダカ研究の最前線に触れメダカの生態系について知識を深めた。今後も東山動物園との交流は続けていく予定



名古屋東山動物園研修風景 (1)



名古屋東山動物園研修風景 (2)

*集まる科学実験教室プロジェクト

平成 27 年度も深谷市内をはじめ、様々な地域において子どもを対象とした科学実験教室を実施。大勢の子ども達に理科の楽しさを伝えました。

新しい取り組みとしては、丸善株式会社からの依頼により、埼玉県桶川市にオープンした、図書館と大型書店を融合した文化・交流施設「OKEGAWA hon プラス+」にて、定期的に科学実験教室を開催することになった。

また、浄土宗の宗立・宗門大学の学生による地域連携活動報告会「フォーラムディスカッション『共生』～地域と世代を越えて～」に本学を代表して参加し、科学実験を通じた地域連携の取り組みを報告した。



フォーラムディスカッション集合写真



OKEGAWA hon プラス+実験風景

*米と日本酒（米作り、そして日本酒へ）プロジェクト

平成 27 年度も地元農家と、丸山酒造株式会社の協力のもと、4 回目となる本学オリジナル日本酒「4 代目 瞬喜道」づくりを実施

6 月・・・深谷市矢島で農業を営む高橋さんと協同で田植えを実施

10 月・・・稲を収穫

1 月・・・丸山酒造株式会社での酒造り合宿を実施

また、昨年に引き続き「そごう大宮店」にて以下の日程で店頭販売を実施。

[販売実績]

◆6月20日(土)・21日(日) / ◆9月21日(月)



そごう大宮 試飲販売風景



3代目瞬喜道 新聞取材風景

*OKABE 光の回廊プロジェクト

- ・7月ふかや市商工会青年部と、JR 高崎線 岡部駅南側に位置する「岡部希望が岡公園」イルミネーション設置に関する調印式を本学にて実施
- ・12月1日(火)、岡部希望が岡公園で「第6回イルミネーション」点灯式
- ・12月22日(火)、学内で「埼玉工業大学イルミネーション2015」点灯式



「第6回イルミネーション」点灯式



「埼玉工業大学イルミネーション2015」点灯式

*ロボコンチャレンジプロジェクト

複数のロボコン大会に出場(大会名は以下のとおり)

8月「かわさきロボコン」特別賞受賞 / 「前橋ロボコン」

10月「相撲ロボット大会」

「ETロボコン」デベロッパー部門アドバンスドクラス1位獲得



大会出場ロボット(1)



大会出場ロボット(2)

*SAIKO ブランド農産品開発プロジェクト

新プロジェクトとして努力した結果、以下の野菜を収穫することが出来ました。

[収穫野菜]

枝豆、カリフラワー、ブロッコリー、カブ、ラディッシュ、白菜

特に白菜は大きく育ち4kgほどのものが採れました。



農作業風景



収穫した白菜

③ 研究計画の進捗状況

- ・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省：最終年度）

研究期間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

研究課題 機能的ナノ材料による新規な表面・バイオセンシング技術の創出

研究費 23,000,000 円(PD・RA 経費含む)

※平成 28 年 5 月末日に最終研究成果報告書を文部科学省に提出予定

④ 科学研究費・その他の補助金助成事業

- ・科学研究費補助金の獲得（日本学術振興会）

※平成 27 年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	27 年度 直接経費	27 年度 間接経費
基盤研究（C）	新規	機械工学科	趙 希禄	3,500,000 円	1,050,000 円
基盤研究（C）	新規	情報システム学科	渡部 大志	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	新規	機械工学科	安藤 大樹	2,100,000 円	630,000 円
挑戦的萌芽研究	新規	先端科学研究所	内田 正哉	2,800,000 円	800,000 円
若手研究（B）	新規	機械工学科	皆川 佳祐	1,400,000 円	420,000 円
若手研究（B）	新規	生命環境化学科	秋田 祐介	1,200,000 円	360,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田 正哉	2,800,000 円	840,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	丹波 修	2,492,600 円	747,780 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	長谷部 靖	500,000 円	150,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	木下 基	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	曹 建庭	1,100,000 円	330,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	山崎 隆治	2,203,600 円	420,000 円
基盤研究（C）	継続	情報社会学科	佐藤 由美	800,000 円	240,000 円
基盤研究（C）	継続	心理学科	友田 貴子	500,000 円	150,000 円
挑戦的萌芽研究	継続	機械工学科	石原 敦	500,000 円	150,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	長谷 亜蘭	500,000 円	150,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	小坂 丈敏	1,671,623 円	501,487 円
若手研究（B）	継続	情報社会学科	河合理穂子	600,000 円	180,000 円
計			18 件	18,167,823 円	4,159,267 円

- ・平成 27 年度経営支援等対策費補助金（戦略的基盤技術高度化支援事業（関東経済産業局）

事業名：「高効率成型システムを有する複合材向けオートクレープの研究開発」

研究者：工学部生命環境化学科 矢嶋龍彦教授

補助対象経費：3,565,000 円（内間接経費 15%）

※長野県テクノ財団から再委託事業

・平成 26 年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））（繰越分）（文部科学省）

事業名：「次世代自動車向けのものづくり教育・研究装置」

補助対象事業経費：42,882,000 円

補助金交付決定額：21,441,000 円

⑤ 地域交流計画の実施状況

高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

【平成 27 年度新たに以下の 3 校と教育連携協定を締結】

- ①埼玉県立羽生第一高等学校
- ②大妻学園大妻嵐山高等学校
- ③埼玉県立滑川総合高等学校

【平成 26 年度までの教育連携協定校 28 校】

- ①智香寺学園正智深谷高等学校
- ②埼玉県立久喜工業高等学校
- ③埼玉県立深谷商業高等学校
- ④埼玉県立熊谷工業高等学校
- ⑤埼玉県立児玉白楊高等学校
- ⑥埼玉県立寄居城北高等学校
- ⑦埼玉県立深谷高等学校
- ⑧埼玉県立深谷第一高等学校
- ⑨群馬県立伊勢崎工業高等学校
- ⑩群馬県立前橋工業高等学校
- ⑪長野県坂城高等学校
- ⑫山梨県甲府市立甲府商科専門学校
- ⑬埼玉県立秩父農工科学高等学校
- ⑭埼玉県立妻沼高等学校
- ⑮群馬県立高崎工業高等学校
- ⑯群馬県立藤岡工業高等学校
- ⑰群馬県立藤岡中央高等学校
- ⑱株式会社立日々輝学園高等学校
- ⑲埼玉県立進修館高等学校
- ⑳群馬県立太田工業高等学校
- ㉑埼玉県立皆野高等学校
- ㉒群馬県立吉井高等学校
- ㉓埼玉県立川越工業高等学校
- ㉔埼玉県立大宮工業高等学校
- ㉕平方学園明和県央高等学校
- ㉖埼玉県立川口工業高等学校
- ㉗埼玉県立浦和工業高等学校
- ㉘埼玉国際学園（日本語学校）

※今後も周辺高等学校を中心に連携を推進中

公開講座・地域連携事業・高大連携

・公開講座・地域連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉工業大学公開講座 (6月3日～7月5日)	・英語コミュニケーション	グレッグ 氏	16人
	・新エネルギー開発の最前線	松浦宏昭 准教授	37人
	・楽しく英語の歌を歌おう	レメディオス 氏	20人
	・楽しく日本文化を英語で表現しましょう	荒木慶和 講師	24人
	・インドの神々を知ることを通じ神話的想像力というものについて	土山泰弘 教授	67人
	・脳の働きといきいき生きるヒント	荒木慶和 講師	79人
	・親子で学ぼう 金属の不思議	長谷亜蘭 講師	34人
	・20世紀以降の現代物理学の歩みについて	松田智裕 准教授	43人
	・3次元写真・動画および全方位パノラマ写真の撮り方	宮地英生 氏	14人
	・地球の流れを見る 地球環境のシミュレーションと可視化	井門俊治 特任客員教授 松岡大祐 講師	33人
環境と技術体験学習 (寄居町教育委員会) (8月10日)	リニアモーターカーの仕組みについて学ぼう	古谷清蔵 准教授	30人
科学技術を楽しむ会 (日本機械学会) (8月30日)	からくりペーパークラフトを作ってメカニズム博士を救出せよ	長谷亜蘭 講師	38人
彩の国コンソーシアム (9月7日)	向こう側の話	三浦和夫 教授	85人
坂城町地域との交流 (坂城中学文化祭) (10月2日)	ペーパークラフトを作って機械の動く仕組みを学習しよう	長谷亜蘭 講師	20人
坂城町地域との交流 (坂城中学文化祭) (10月30日)	羽ばたき飛行機を作って、飛行機の原理と機械の動く仕組みを学習しよう	長谷亜蘭 講師	20人
SAIKO フェア (10月11日)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究展示 (9 研究室) ・科学実験プロジェクト ・深谷高・寄居城北高・大宮工業高校 ・坂城高校による学習成果発表 	高坂 研究室 秋田 研究室 橋本 研究室 古谷 研究室 石崎 研究室 前田 研究室 中川 研究室 森沢 研究室 井門俊治 特任客員教授	——

・公開講座・地域連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
総合教育センター教育展 (集まれセンター探検隊) (10月17日)	3Dキャラクターとおしゃべりしよう ラズベリーパイ他	橋本智己 准教授 井門俊治 特任客員教授	——
埼玉県産業教育フェア (11月21日・22日)	3Dキャラクターとおしゃべり 太陽電池を作ってみよう 情報社会学科の紹介 情報社会学科の紹介	橋本智己 准教授 石崎博基 准教授 小寺昇二 教授 森沢幸博 准教授	——
坂城町ふれあい講座 (バス見学編) (3月12日)	富岡製糸場見学と埼玉工業大学見学	井門俊治 特任客員教授	34人
坂城ふれあい講座 (3月19日)	視覚の不思議	山崎隆治 准教授	10人
坂城町との連携会議 (3月30日)	事業報告及び次年度事業計画	井門俊治 特任客員教授 吉沢浩和 教授 長谷亜蘭 講師	——

・埼玉県・深谷市との連携事業

講座名	内容	講師	参加人数
子ども大学ふかや (8月1日～10月24日)	入学式 ① 英語の歌を歌おう ② アイスcreamができるまで (赤木乳業見学) ③ 包帯を巻いてみよう ④ 車いすを上手に押せるようになろう ⑤ リニアモーターカーの仕組みを知ろう ⑥ 故郷の食文化と地域の達人の技 ⑦ 学習成果発表(子ども大学熊谷合同) ⑧ 修了式	埼玉工業大学 レメディオス氏 赤城乳業(本庄) 東都医療大学 東都医療大学 石崎博基 准教授 深谷青年会議所 埼玉工業大学	77人
ふかや市民大学 (10月10日)	医療・福祉分野における情報技術の活用	山崎隆治 准教授	67人
熊谷いきいき大学 (6月2日)	身近な環境の浄化と省エネルギー化	有谷博文 准教授	56人
熊谷いきいき大学 (2月26日)	ロボットの最新動向	橋本智己 准教授	89人

・高大連携校との連携授業（協定校）

高校名・講座名	テーマ	講師	参加人数
群馬県立太田工業高等学校バス見学 (6月4日)	大学紹介 機械工学科紹介・ロボット体験 情報システム学科紹介・体験	趙 希禄 教授 石原 敦 教授 井上 聡 准教授	80人
群馬県立吉井高等学校バス見学 (6月22日)	・各学科の紹介 ・学生フォーミュラカー活動 ・味覚の不思議 ・無線について	高坂祐顕 准教授 熊 澤隆 教授 松井章典 教授	42人
埼玉県立熊谷工業高等学校 学年集会講演会 (7月6日)	人権対策講座	宮井里佳 教授	300人
群馬県立高崎工業高校 インターンシップ事業 (7月23日～24日)	テフロン表面の超親水化	矢嶋龍彦 教授	1人
埼玉県立寄居城北高校 (7月28日～31日)	C G 教室	井門俊治 特任客員教授	20人
埼玉県立深谷高等学校 (7月28日・29日)	C G 教室	檀上 誠 准教授	15人
埼玉県立深谷高等学校 (7月30日・31日)	C G 教室	井門俊治 特任客員教授	30人
埼玉県立深谷商業高等学校 (8月3日～5日)	C G 教室	井門俊治 特任客員教授	20人
長野県坂城高校文化祭（葛尾祭） (8月30日)	ロボットチャレンジ 集まれ科学執権プロジェクト ラジコン研究会 キネクト	石原 敦 教授 吉沢浩和 教授 石崎博基 准教授 森沢幸博 准教授 他 関係職員	——
平方学園明和県央高校文化祭 (9月4日・5日)	ジェットコースター作成協力	中谷 非常勤講師	——
群馬県立前橋工業高等学校バス見学 (9月18日)	・ドライビングシミュレータ体験 ・バイオエレクトロニクス研究 ・コミュニケーションエージェントの紹介	高坂祐顕准教授 長谷部靖教授 橋本智己准教授	40人
日々輝学園高等学校 (9月25日)	PowerPointによる動きのあるスライド プログラミングで数学を学ぼう	関口久美子講師 伊丹史雄講師	36人
群馬県立藤岡工業高等学校バス見学 (10月20日)	・金属材料の不思議に迫る ・ミラクルフルーツの不思議 ・IT分野の最新事情	長谷亜蘭講師 熊澤隆教授 大島浩太准教授	42人

・高大連携校との連携授業（協定校）

高校名・講座名	テーマ	講師	参加人数
群馬県立高崎工業高等学校と工業化学 科との連携授業（12月8日）	ルミノールのマイクロ波合成と化学発光 顕微鏡の操作と微小生物の観察 他に生命環境工学科各研究室見学	浜名 浩 教授 秋田祐介 講師	40人
群馬県立高崎工業高等学校バス見学 （12月17日）	機械工学とロボット バイオエレクトロニクスの研究 拡張現実感技術で電腦世界を体験しよう	石原 敦 教授 長谷部靖 教授 坂本政祐 准教授	80人
日々輝学園高等学校 （12月21日）	かんたんシューティングゲームプログ ラミング 画像処理プログラミング入門	坂本政祐 准教授 山崎隆治 准教授	19人
埼玉県立熊谷工業高等学校 （1月19日～22日）	インターンシップ職業体験	井上 聡 准教授 情報基盤センター 管財課	3人
埼玉県立滑川総合高等学校 （1月20日）	AR、VR 技術の動向と未来	森沢幸博 准教授	45人
群馬県立藤岡中央高等学校 （2月3日）	金属材料の不思議に迫る	長谷壱蘭 講師	40人
埼玉県立川越工業高等学校 （2月4日）	大学の概要説明 命環境化学科施設見学	岩崎政和 教授 石川正英 教授 木下基准 教授 秋田祐介 講師	80人
群馬県立高崎工業高等学校 （1月27日）	平成27年度 学習成果発表会	井門俊治 特任客員教授	800人
長野県坂城高等学校 （1月28日）	平成27年度 インターンシップ報告会	井門俊治 特任客員教授	140人
群馬県立前橋工業高等学校 （2月10日）	平成27年度 学習成果発表会	田中正一 教授	800人
埼玉県立熊谷工業高等学校 （熊谷市民文化センター） （3月18日）	平成27年度 インターンシップ報告会	井門俊治 特任客員教授	800人
埼玉県立妻沼高等学校 （3月15日）	スマートフォンでつながる世界 職業について考えてみよう 買いたくなる！「宣伝広告」とは？ 味覚の不思議 ロボットの最新動向 ものを作るために学ぶ「形を伝え合う ことば「製図入門」	高橋 優 准教授 巖岩秀章 教授 林 信義 教授 熊澤 隆 教授 橋本智己 准教授 高橋俊典 講師	150人 30人 30人 30人 30人 30人

・臨床心理センター

セミナー名	テーマ	担当	参加人数
土曜セミナー	向こう側の話（6月20日）	三浦和夫教授	82人
	最近の非行少年の特徴から見える現代社会（7月18日）	小野広明教授	85人
	何もしないのと、何かするのとどちらが良いのか（9月19日）	袈岩秀章教授	84人
	学習・記憶・思考の仕組み（10月17日）	河原哲雄教授	79人
	色の心理学・色の世界（11月21日）	大塚聡子教授	84人
	遊ぶことの意義（12月19日）	藤巻るり講師	61人
ワークショップ	心理学実験を体験してみよう（9月5日）	曾我重司教授	5人
	箱庭療法の体験（5月28日～10月1日：全5回）	三浦和夫教授	7人
幼児グループ	子育て支援（年31回）	友田貴子准教授 藤巻るり講師	幼児延数 213人

⑥ 主な施設設備計画の実施状況

24号館 大乘殿空調設備更新工事	23,328千円
6号館 611・631 教室プロジェクター更新工事	11,275千円
19号館 屋上防水更新工事	4,752千円
26号館 2622・2631・2632・2633 教室照明LED球交換工事	2,300千円
26号館 1～4階内装塗装更新工事	1,706千円
25号館 守衛所屋根・外壁塗装更新工事	1,425千円
27号館 誘導灯改修工事	928千円
10号館 非常階段塗装更新工事	723千円
26・30号館 防犯カメラ設置工事	516千円
高校 3・体育館耐震改修工事	665,516千円 (私立高等学校施設整備費)

⑦ 就職事業状況

地域交流（長野県及び坂城町等）

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、就職活動を控えた3年生を対象に2日間企業見学を実施し、工学部を中心に学生が参加した。参加人数9月10日（16名）・9月11日（16名）
- (2) 6月17日開催の「学内合同企業説明会」に、就職支援協定に基づき群馬中小企業家同友会から13社、坂城町連携協定に基づき5社が参加した。
- (3) 2月23日開催の「U・Iターン業界研究セミナー」に、坂城町企業2社、茅野・諏訪からも3社が参加した。

学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は、8月～9月に「筆記試験対策講座」を集中的に開講し、2月～3月上旬直前対策講座を設けた。
- (2) 1年生は、入学後に就職ガイダンスを実施すると共に、大学生基礎力レポートを受け、学生生活の充実を図り3年後の就職活動を見据えたフォローガイダンスを実施した。2年生は、就職ガイダンス、就職準備講座、インターンシップガイダンスなどを実施した。3年生は、就職ガイダンス、インターンシップガイダンス、就職活動に必要な対策講座を実施した。
- (3) 厚生労働省委託事業「大学生のための労働条件セミナー」を開催した。
- (4) 12月に大手企業を集め「業界研究セミナー」を実施した。
- (5) 3年生対象の「就職面接合宿研修」を国立女性教育会館において11月・2月開催し、延べ95名の学生が参加した。合宿に参加できなかった学生のために、「1day面接突破研修」を設け5日間実施した。延べ107名の学生が参加した。
- (6) 次期就職活動を見据えて、学部3年生・大学院1年生を対象とした「学内業界研究セミナー」を4日間開催し、延べ1,527名が参加した。

関東地区大学理工系就職研究会

- (1) 年間4回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。
- (2) 7月本学主催研究会に於いて、榊北村製作所の工場見学会と情報交換会を行った。

各県就職情報交換会

- (1) 栃木県・茨城県・群馬県・長野県・新潟県等、各県主催の就職情報交換会に出席しU・Iターン就職希望者への情報とした。
- (2) 埼玉中小企業家同友会主催の意見交換会に参加した。
- (3) 埼玉県・群馬情報サービス産業協会主催の意見交換会に参加した。

合同就職説明会及び個別就職説明会

- (1) 未内定者を対象に学内で4月～6月、8月～3月毎月1回企業説明会を行うと共に、学内での企業による個別説明会と一次選考を延べ55社実施した。
- (2) 9月に埼玉県大学就職問題協議会加盟17大学が主催し、埼玉県中小企業家同友会・埼玉県情報サービス産業協会・りそな銀行の関係3団体の協力を得て、17大学合同企業説明会をさいたま市のホテルブリランテ武蔵野で開催し、56社の企業と282名の17大学の学生が集まった。本学から15名の学生が出席した。

その他の事業

- (1) 埼玉産業労働部の補助事業として、3年生を対象に埼玉県企業（ボッシュ㈱・㈱赤城乳業）の工場見学会を行った。併せて群馬県企業（㈱ハラダ・㈱浅野）の工場見学も実施した。埼玉30名、群馬27名の学生が参加した。
- (2) 7月11日（土）4年生保護者向けガイダンスと個別面談を実施した。7月25日（土）2・3年生保護者向け就職ガイダンスを開催した。延べ339名の参加があった。
- (3) 埼玉労働局の大学ジョブサポーター常駐により、未内定者の個別対応を実施した。
- (4) 年度末には未内定者の保護者宛に学内での合同企業説明会の案内を行った。
- (5) 平成25年度より週3日キャリアカウンセラーによるカウンセリングを実施している。昨年度よりカウンセラーと就職課職員による研究室訪問も実施した。
- (6) 諏訪圏地元企業・高校教員との情報交換会を実施、併せて諏訪圏工業メッセを学生に見学させた。18名の学生が参加した。

高校部門

① 進路実績

平成 27 年度卒業生 373 名の進路状況を以下にまとめた。前年度と比較して、四年制大学への進学率が 5 ポイント以上下降しているが、これは専門学校希望者の増加によるところが大きい。専門学校については医療系分野（看護師・理学療法士・作業療法士等）への進学者が多く、資格取得による希望職種への就職を強く意識した結果と考えられる。

また、進学準備生徒数の上昇については、四大卒の就職状況好転に伴い、国公立大学文系の難易度が上昇し、昨年と比較して合格ラインが上昇した影響も大きいと考えられる。

年度当初に掲げた「国公立大学 30 名合格」の目標は達成できたものの、私立大学については、残念ながら目標数値を大きく下回ってしまった。これは、併願出願校数の減少傾向によるところが大きいと考えられるが、国公立大学の実績からすると、やや物足りない部分である。現実的な受験校選択も当然必要だが、チャレンジ精神を持って、より難関の大学へ挑戦する意欲も喚起していきたい。

埼玉工業大学への内部進学者数については目標とする 45 名を達成することが出来なかった。ミオープンキャンパスなど通じて生徒への認知度を高める試みを続けているが、指導をする教員側に付属大学の魅力が浸透していない部分も見受けられるので、今後はなお一層の高大連携に向けて、大学との連携を強化し、内部進学者の増加を図っていきたい。

◆卒業生進路状況

	24 年	25 年	26 年	27 年
卒業生数	341	358	344	373
四年制大学	79.5%	72.6%	79.1%	72.9%
短期大学	2.1%	1.7%	1.7%	2.9%
専門学校	12.3%	13.1%	10.8%	13.4%
就職	2.9%	8.4%	6.1%	6.2%
進学準備	3.2%	4.2%	2.3%	4.6%

◆四年制大学

	24 年	25 年	26 年	27 年
国公立大学	25	13	31	32
私立大学	568	391	437	416
合計	593	404	468	448

◆進学先大学の受験方法【大学進学者/272 名】 ※（ ）内は全大学進学者における割合

	一般入試	AO 入試	公募制推薦	指定校推薦	内部推薦 (埼玉大)	その他 (スポーツ推薦)
国公立大学 【20 名】	14 (5.1%)	6 (2.2%)				
私立大学 【252 名】	50 (18.3%)	28 (10.2%)	6 (2.2%)	125 (45.9%)	28 (10.2%)	15 (5.5%)

◆国公立大学合格者 32 (1) 名 ※（ ）内は既卒生

筑波	1	東京農工	1	埼玉	2	電気通信	1
埼玉県立	2	群馬 (1)	5	宇都宮	1	筑波技術	1
静岡	1	信州	1	鳥取	1	高崎経済	4
群馬県立女子	2	前橋工科	3	都留文科	1	静岡文化芸術	1
会津	1	釧路公立	1	名桜	2		

◆私立大学合格者 416 (8) 名 ※（ ）内は既卒生

埼玉工業	38	成蹊	5	武蔵	6	北里	1	東洋 (1)	50
東京理科	1	成城	4	獨協	7	東京都市	1	駒澤	12
立教	5	明治学院	2	國學院	4	東京農業	1	専修	3
法政	17	芝浦工業	2	日本女子	1	日本	12	文教	4
東京電気 (1)	13	工学院	8	玉川	3	その他私立	216 (6)		

② 平成 28 年度入学者実績 【456 名：男子 290 名／女子 166 名】

今年度入試においては、以下の通り近年にない多くの入学生を迎えることとなった。募集定員 360 名のみならず、学則定員 400 名を超える結果となった。このように予想をはるかに上回る結果に至った大きな理由としては、以下の二点に絞られる。

- (1) 本庄東高校／ 前年度入試での定員超過に伴う入学生の絞込みに伴う本校受験生の増加。
- (2) 本庄第一高校／昨春、生徒が引き起こした騒動によるイメージ低下に伴う本校受験生の増加。

合わせて、本校の併願先上位公立高校（熊谷西・本庄・深谷第一）の競争率の上昇も遠因として挙げられる。その結果、S 枠外ならびにアタック P の併願受験生の戻り率が過去実績を大きく上回り、結果的に全体の入学生数の上昇につながった。本校の教育活動が評価されて入学に至った生徒も多くいると想定されるが、次年度入試においてはこの追い風は当てに出来ないものであり、なお一層の教育活動の充実と生徒募集活動の活性化が必須である。今年度の好結果を一過性のものとして終わらせることの無いよう、教職員一同、一致団結して努力していきたい。

系統	特進系			アタック		スポーツ系
	S プラス	S 枠外	S アリート	P ポジティブ	A アクティブ	
男子	10	41	14	63	56	男子のみ
女子	19	31	0	55	61	106
合計	29	72	14	118	117	
	115 (25.2%)			235 (51.5%)		106 (23.2%)

③ 耐震リニューアル工事

平成 25 年より足掛け 4 年に渡った耐震リニューアル工事が、平成 28 年 3 月に全ての工事を完了し、無事に引渡しを終えた。この結果、1 号館、2 号館、3 号館の各教室および特別教室、図書館、学食、バーカークーナ、視聴覚室、そして体育館の耐震化が全て完了し、安全性の向上が図られた。合わせて、教室ガラス面増加により開放感が向上し、LED 照明や最新空調設備、トイレ洗浄便座等の導入により快適性も向上した。これにより 1～3 号館と 5 号館の間に見られた学習環境の差も解消され、全ての生徒が安全かつ快適な環境の下での学校生活が可能となった。今後の生徒募集においても施設面での充実は大きなセールスポイントとなり得るので、中学校や塾訪問、学校説明会等の場面での効果的な広報活動に生かしていきたい。

④ 財政の健全化

平成 27 年度事業計画にはこれまで同様、以下の三項目を改善に向けての努力目標として掲げた。

- (1) クラス数の適正化（1 クラス当たり人数を増やす）
- (2) スクールバス有料化ならびに路線の見直し
- (3) 奨学金額の適正化

しかしながら、年度内には何ら具体的な行動を起こすことが出来ずに終わることとなってしまった。合わせて、(3) については、スポーツ特待生の総額削減は図れたものの、学力特待生については特待条件を他私立高校並みに変更したため、結果的に総額が前年度を上回ることとなってしまった。その反面、学力特待条件の見直しは入学生の大幅増加に直結したことも事実であり、3 年後の進路実績が大いに期待できることにも繋がっている。

また、新入生が 456 名となりながらも、クラス数は現状の 13 クラス編成に抑えたことにより、図らずも (2) クラス数の適正化を実現することとなった。S アリートクラスが存在が、平均の 1 クラス当たりの人数を大きく引き下げてしまっているが、今後計画しているスポーツ系・S アリートクラスの発展的解消によって、この部分も改善されると見込まれる。

スクールバスの有料化については、バス運行代金の急上昇に伴い、利用料を徴収することによる経済的な弊害が心配される。高校単体の方針としてではなく、学園全体の方針としてスクールバスの運行をどのように捉えていくかが重要である。次年度、数字的な裏づけを基に現実的な方向性を見出していきたい。

3. 財務の概況

(1) 概況

平成27年度資金収支の状況は、収入の柱である学生生徒等納付金収入が頭打ちの状況から若干の減少に転じ、他収入も特に増加はみられず、また、支出面は施設設備関係の投資が活発であったこともあり、一部借入金を投入したが支出超過を余儀なくされた決算となった。

学生募集の状況は、大学において平成27年度生の募集までは右肩上がりで推移し、入学定員以上をコンスタントに確保してきたが、平成28年度生においては、工学部において定員は確保するも前年ほどの実績はみられず、また、人間社会学部で期待していた学費改訂や専攻制も追い風とはならず、逆に減収要因となった。

ただ、高校の生徒募集は近年に無く好調で、募集定員の360名を大幅に超える実績を示し、平成28年度以降収入面での寄与に期待したい。

(2) 消費収支、事業活動収支の状況

今年度決算より、従来の消費収支決算から事業活動収支決算に名称が変更となり、決算書構成も大幅に変更となったため、前年度との単純比較は出来ないが、主要科目については増減を踏まえ以下のとおりです。

収入で従来の帰属収入に対応する額で比較すると、前年対比183百万円の減少で4,802百万円、消費支出は前年対比18百万円減少となり4,452百万円、帰属収支差額は515百万円から350百万円（基本金組入前当年度収支差額と決算上表記）への減少です。

主要科目での前年度比較は以下のとおり

	H26年度	H27年度	増減
学生生徒等納付金	3,531	3,506	-25
補助金	1,046	924	-122
人件費	2,622	2,606	-16
（退職金）	(319)	(257)	(-62)
教育研究経費	1,415	1,456	41
（内減価償却費）	(422)	(442)	(20)

連続消費収支の状況 ～平成26年度まで

(単位 百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
帰属収入合計 (A)	4,232	4,320	4,351	4,867	4,986
(内 学生生徒等納付金)	(3,123)	(3,346)	(3,359)	(3,520)	(3,531)
(内 補助金)	(811)	(660)	(761)	(978)	(1,046)
基本金組入額	278	267	180	558	628
消費収入合計 (B)	3,954	4,053	4,171	4,309	4,358
消費支出合計 (C)	4,259	4,198	4,198	4,515	4,471
(内 人件費)	(2,503)	(2,502)	(2,417)	(2,655)	(2,622)
(内 教育研究経費)	(1,276)	(1,264)	(1,322)	(1,366)	(1,415)
消費収支差額 (B)-(C)	△305	△145	△27	△206	△113
帰属収支差額 (A)-(C)	△27	122	153	352	515

事業活動収支の状況 H27年度

科目名	予算	決算
教育活動収入 (A)	4,530	4,530
(内 学生生徒等納付金)	(3,516)	(3,506)
(内 補助金)	(667)	(673)
(その他)	(347)	(351)
教育活動支出 (B)	4,585	4,431
(内 人件費)	(2,558)	(2,606)
(内 教育研究経費)	(1,646)	(1,456)
教育活動収支差額(A)-(B)	△ 55	99

教育活動外収入 (C)	3	5
教育活動外支出 (D)	15	15
教育活動外収支差額(C)-(D)	△ 12	△ 10

経常収支差額 (決算) 89

特別収入 (E)	274	268
特別支出 (F)	5	6
特別収支差額(E)-(F)	269	262

基本金組入前当年度収支差額 (決算) 350

(3) 資産負債の状況

今年度の資産負債の状況は、総資産552百万円、総負債202百万円それぞれ増加し、純資産で350百万円の増加となりました。内容的には大口の設備投資と新規借入の実行が大きな要因です。固定資産は、有形固定資産で投資額1,336百万円に対し、減価償却・除却等で516百万円の実績で826百万円の増加、特定資産、その他の固定資産の増加と併せて、固定資産合計では16,495百万円の残高となりました。流動資産は2,829百万円から2,545百万円に減少、現金預金及び未収入金の減少が殆どで287百万円を占めています。

負債勘定は、固定負債で新規借入金の実行を行ったこともあり224百万円の増加、流動負債はほぼ横ばいの結果から負債総額は3,255百万円の残高でした。

純資産の部は15,786百万円と前年対比増加したが、うち繰越収支差額は9,300百万円の支出超過となりました。

(4) 連続貸借対照表の状況

(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
固 定 資 産	15,119	14,963	15,189	15,659	16,495
流 動 資 産	2,685	3,006	3,037	2,829	2,545
資産の部合計	17,803	17,969	18,226	18,488	19,040

固 定 負 債	2,256	2,117	1,930	1,718	1,942
流 動 負 債	1,132	1,283	1,376	1,334	1,312
負債の部合計	3,388	3,400	3,306	3,052	3,255
純資産の部合計	14,415	14,568	14,920	15,435	15,786
(内 翌年度繰越収支差額)	(△9,426)	(△9,426)	(△9,632)	(△9,347)	(△9,300)
負債及び純資産の部合計	17,803	17,969	18,226	18,488	19,040

